

企画展 諏訪鉄山

現在観光地として、あるいは別荘地として賑わっている蓼科湖南岸から蓼科中央高原一帯は、第二次世界大戦を挟んだ一時期、日本の鉄不足を補うため褐鉄鉱を採掘する鉱山、「諏訪鉄山」として 2000 名を超える作業従事者が働く場でありました。

今でも蓼科中央高原を散策すると、自然とは思われない尾根を切り取ったような地形のなかに、当時の痕跡がわずかに残されています。また、現在ビーナスラインの名前で親しまれている旧蓼科有料道路が、かつて「諏訪鉄山」から鉄鉱石を搬出するための鉄道の敷設された跡であることを知る人も少なくなってきました。

今回の企画展では、鉄鉱石の鉱山としての「諏訪鉄山」ばかりでなく、その搬出までを当時の写真資料やわずかに残されている実物資料から探っていきます。



採掘の様子



採掘の様子



金堀場露天掘りの切羽



索道と搬器



万石からトラックへ



北山線の開通を祝う